



# JPI催しのご案内

**2022**  
**10**

公益社団法人日本包装技術協会

**— 2022年度の本催しについて —**2022年度につきましても引き続きウェビナー（WEBセミナー）で  
皆様に情報発信をさせていただきます。**●開催要領****日 時** ①令和4年10月19日(水) 13:30～15:00 / ②令和4年10月20日(木) 10:00～11:30  
③令和4年10月24日(月) 15:00～16:00 / ④令和4年10月25日(火) 10:00～12:00**参加費** JPI法人・個人会員：無料 / 一般：11,000円(1部会、税込) **定 員** 300名**① 10月19日(水) 13:30～15:00 JPI西日本支部主催****【テーマ】 AI外観検査の最前線 ～食品業界ならではの検査事情とロボット・排出機構連携による全自動化～**

製品の形状や合格品の判定基準が画一ではなく、製品検査を人手に頼らざるを得ない。製品検査を省人化し、フードロス削減を実現させたい。

そんな課題を解決するソリューションとして、食品製造業で注目を集めている「AI機械学習を用いた画像判定技術」について、食品製造業で数多くの導入実績を持つYEデジタル社から、食品業界ならではの事情を交えて解説します。

アイキューブデジタルからは、安川グループであるという強みを活かし、グループ各社との協業によって、画像判定からロボット等による排出機構まで一貫して提案をおこなっている異物排除のアプリケーションについて最新の活用事例と、AIをスムーズに工場内のラインに組み込むために欠かせないポイントをご紹介します。

検査対象はコチラ！

原材料、成形品、包装の噛み込みやシール不良等

こんな方にオススメです！

生産管理・品質管理に携わり、製造工程の自動化・効率化・品質安定に向けた取り組みをされている方AI画像解析技術を取り入れた、もしくはこれから取り入れることを検討される食品メーカー、機器メーカーの方

**【講 師】** 株式会社 YEデジタル デジタルプロダクト本部 AI開発  
株式会社 アイキューブデジタル 取締役FA技術部長有 吉 浩 平 氏  
三 原 秀 一 氏**申 込 要 領**

- ◆お申込は当会ホームページより、先着順とさせていただきます。
- ◆お申込みが定員に達した場合、一社における参加人数に制限を持たせて頂く場合があります。
- ◆お申し込みは、JPIWEBフォーラム開催3日前までをお願いします。

**個人情報の取扱いについて**

- 1) 個人情報は「公益社団法人日本包装技術協会 JPIWEBフォーラム」の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに当会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。
- 2) 参加申込によりご提供頂いた個人情報は、法令に基づく場合等を除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。

**参加申し込み方法と注意事項**

- ・本催しはwebを使用してのオンライン講演会（ウェビナー）になります。
- 申し込みは当会ホームページのJPIWEBフォーラム参加申込ページより登録いただくようお願いします。申込者にはウェビナー開催の2日前頃に「ウェビナー招待メール」をお送りしますので、**メールアドレスの入力を間違えてしまうと登録できずメールをお送り出来ません**のでご注意ください。
- ・お送りする「ウェビナー招待メール」にて、**参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項**をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。
- ・申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。
- ・その他注意事項などにつきましては当会ホームページ上よりご確認の上、参加登録をお願い致します。

**当会ホームページ URL : <https://www.jpi.or.jp/>****◆お問い合わせ及び各種催しの申し込み先◆**〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F  
公益社団法人日本包装技術協会 担当：佐藤 TEL.03-3543-1189 FAX.03-3543-8970  
●JPI催しのご案内はインターネットでも公開中です。 URL <https://www.jpi.or.jp/>**JAPAN PACKAGING INSTITUTE****◆裏面にもウェビナーのご案内がございます◆**

## ② 10月20日(木) 10:00~11:30 JPI関西支部主催

### 【テーマ】 貨物鉄道における定温コンテナ輸送の紹介と今後の可能性について

定温物流のニーズは、冷凍、冷蔵食品の需要の高まりや2024年問題の影響により拡がっています。カーボンニュートラルやトラックドライバー不足の課題を解決出来る鉄道コンテナによる定温輸送の期待は大きく、これまで蓄積した定温輸送の実績と新たな鮮度維持技術も取り入れながら、ご利用に向けた提案を進めています。今回は、商品の紹介やそれを利用した取組みについてご紹介します。

【講師】 日本貨物鉄道株式会社(JR貨物) 鉄道ロジスティクス本部営業部 副部長

中村 隆氏

## ③ 10月24日(月) 15:00~16:00 JPI本部主催

### 【テーマ】 フィルムボトル開発事例のご紹介

花王㈱では豊かな持続的社会的の実現に向けて、ESG視点で「よきモノづくり」を行っております。特に容器においてはごみゼロに向けて開発を進めております。その中で、リデュースを目的の一つとしたフィルムボトルである「Air in Film Bottle」(エアインフィルムボトル)を開発し、米国にて上市いたしました。本容器は、容器の外側に空気を入れて膨らませることにより、フィルム容器でありながら残量が低下しても容器が変形しにくく最後まで起立安定性を維持します。また、ポンピング時の荷重に耐えるためポンプ製品の本品容器として使うことができます。また、従来ボトルに比べて液残りが少なく最後まで使うことができます。本講演では、このAir in Film Bottleの開発事例についてご紹介させていただきます。

【講師】 花王株式会社 包装技術研究所 グループリーダー

倉賀野 彰氏

## ④ 10月25日(火) 10:00~12:00 JPI本部主催

### 【テーマ】 前半：ポリプロピレン樹脂の基礎と技術動向 後半：バイオマス樹脂、マスバランス方式の概論

前半：石油化学により作られる汎用樹脂の代表であるポリプロピレンは、国内年間生産量(2020年)は約220万トンであり、その特長である強度と耐熱性および耐薬品性、且つ軽量であることから身の回りの様々な用途に用いられております。今後、ポリプロピレンを用いたフィルム等の製品は高機能・高付加価値を推し進め、社会課題解決に貢献していくものと期待されます。

本講演では、ポリプロピレン樹脂の製造や物性に関する基礎編と、昨今の技術動向を解説いたします。

後半：2050年カーボンニュートラル実現に向け、バイオマス樹脂の重要性が高まっています。様々なバイオマス樹脂が開発・上市されていますが、中でも廃食用油由来のバイオマスナフサを原料に用いることで、従来の化石資源由来のプラスチックをバイオマス樹脂に転換することが可能になります。当日はバイオマスナフサを原料とするバイオマス樹脂の製造と、その管理手法としてのマスバランス方式についてご紹介します。

【講師】 前半：株式会社 プライムポリマー 産包材研究所 主幹研究員

犬飼 章博氏

後半：三井化学株式会社 グリーンケミカル事業推進室 室長付

池 永裕一氏

## 参加申し込み方法と注意事項

- ・本催しはwebを使用してのオンライン講演会(ウェビナー)になります。
- ・申し込みは当会ホームページのJPIWEBフォーラム参加申込ページより登録いただくようお願いいたします。申込者にはウェビナー開催の2日前頃に「ウェビナー招待メール」をお送りしますので、**メールアドレスの入力を間違えてしまうと登録できずメールをお送り出来ません**のでご注意ください。
- ・お送りする「ウェビナー招待メール」にて、**参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項**をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。
- ・申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。
- ・その他注意事項などにつきましては当会ホームページ上よりご確認の上、参加登録をお願い致します。

当会ホームページ URL : <https://www.jpi.or.jp/>